



【八学光星—東奥義塾】5回表、八学光星2死一、二壘、洗平が中前適時打を放ち、6—0とする—長根

光星猛攻12得点 勢い欠く 東義打線

▽準々決勝（八戸市長根公園）

【評】八学光星が序盤から得点を重ねて主導権を握った。5点リードで迎えた五回、洗平の適時打などで3点を加えたほか、七回も代打西尾の適時一塁打などでさらに4

先発洗平、打でも活躍
○：中盤以降、持ち前の強力打線が本領を発揮した八学光星。レベルの高い投手陣のそろった東奥義塾が相手とあって、仲

井監督は「相手の継投を見越して準備してきた。ここ一番の場面でよく打ってくれた」と選手たちをたたえた。
先発の洗平は、2打数2安打2得点と打撃でもチームに貢献。好機で打席が回り「ピッチャーの自分が打てばチームが盛り上がる」と奮起、結果を出した。仲井監督は「2年生なのでまだまだ伸びしろがある」と今後の活躍に期待した。

点を追加し、コールド勝ちした。先発の洗平は6回を被安打1、9奪三振と力投した。
東奥義塾は投手4人の継投が実らず。打線も2安打と勢いがなかった。
先発の洗平は、2打数2安打2得点と打撃でもチームに貢献。好機で打席が回り「ピッチャーの自分が打てばチームが盛り上がる」と奮起、結果を出した。仲井監督は「2年生なのでまだまだ伸びしろがある」と今後の活躍に期待した。

春季東北地区高校野球県大会は第6日の21日、青森市の県営球場と八戸市長根公園野球場で準々決勝4試合を行い、4強が決まった。弘前学院聖愛は七回に長短5安打を集めて4点を挙げ、6—5で弘前東に逆転勝ち。青森山田は3投手の継投でリードを守り切り、弘前を破った。八学光星は1本塁打を含む12安打12得点の猛攻で、東奥義塾にコールド勝ち。八工大も八工大二との兄弟校対決をコールドで制した。大会第7日の27日は県営球場で準決勝2試合を行う。

春季 県高校野球

第6日

（本紙取材班）